

# 田代香織さんがエッセー最優秀 絵手紙は主婦の堀記子さんに

日遊協主催「第1回パチンコ・パチスロ エッセー・絵手紙コンクール」の最終審査委員会が5月11日、日遊協本部会議室で開かれた。エッセーの最優秀賞には北海道千歳市、派遣会社勤務、田代香織さん(29)の「パチンコとおじさまと私」(一般の部)が、絵手

紙の最優秀賞には愛知県刈谷市、主婦、堀記子さん(58)の作品がそれぞれ選ばれた。さらに、エッセーの優秀賞と絵手紙の優秀賞各2編、佳作各10編が決まった。最優秀賞の2人は、6月9日の日遊協第22回通常総会の席上で表彰される。また、入賞作品は日遊協ホ

ームページで掲載されるほか、作品集としてまとめて発表される。

## 孤独を感じて入った ホールでおじさんが

エッセーで最優秀賞に選ばれた田代さんの作品は、職場の同僚と距離を置く生き方のためにちよっぴり孤独を感じている女性が、普段の生活から離れたくなって、帰り道にひよっこり入ったパチンコ店での体験記。

遊び方に不慣れなため悪戦苦闘していたら、状況を察した隣の席のおじさんが要所所で助け船を出してくれた。おかげで当たり出し、隣で気になっていたおじさんも熱が入ってドル箱運びを手伝ってくれるなど、「二人三脚」で閉店

## エッセー

◆最優秀賞(1編:旅行券30万円分)

田代香織(29) (派遣会社勤務) 北海道千歳市  
「パチンコとおじさまと私」

◆優秀賞(2編:旅行券10万円分)

【日本遊技機工業組合優秀賞】  
河野ひさ江(82) 千葉県茂原市  
「私のパチンコ人生」

【日本電動式遊技機工業協同組合優秀賞】

秋山景一(33) (三宝商事株) 佐賀県小城市  
「大好きなあなたへ」

## 入賞者

第1回パチンコ・パチスロ  
「エッセー・絵手紙」コンクール  
最終審査委員会委員長(敬称略)

◆審査委員長

深谷 友尋(日遊協会長)

◆業界委員

原田 實(全日遊連理事長)

市原 高明(日工組理事長)

里見 治(日電協理事長)

井上 威夫(全商協会長)

伊豆 正則(回胴遊商理事長)

木原 一雄(自工会理事長)

◆日遊協委員

庄司 孝輝(担当副会長)

松谷 明良(明日の協会創造室長)

福山 裕治(広報委員会委員長)

◆事務局

篠原 弘志(専務理事)

伊東 慎吾(常務理事)

## 第1回 パチンコ・パチスロ「エッセー・絵手紙」コンクール

### 絵手紙

◆佳作 (10編：商品券2万円分)

- 前田人志 (26) (三宝商事株) 鹿児島県鹿屋市
- 迫本哲也 (35) (株)プロバ) 広島市
- 荒川惟久 (52) (トリックスターズ・アレア) 東京都目黒区
- 松本新 (54) (株)大商) 東大阪市
- 沖口純也 (54) (株)正業プロジェクト) 北海道北斗市
- 雨海淳一 (40) (無職) 茨城県ひたちなか市
- 山下勝 (49) (自営業) 東京都台東区
- 横田俊宏 (47) (ホテル勤務) 東京都世田谷区
- 藤井仁司 (32) (溶接工) 京都府八幡市
- 五十嵐文宣 (63) (無職) 大阪府枚方市

◆最優秀賞 (1編：旅行券15万円分)

堀記子 (58) (主婦) 愛知県刈谷市

◆優秀賞 (2編：旅行券5万円分)

【全国遊技機商業協同組合連合会優秀賞】

山田美奈子 (41) (会社員) 東京都江東区

【回胴式遊技機商業協同組合優秀賞】

永井明人 (57) (自営業) 静岡県袋井市

◆佳作 (10編：商品券1万円分)

- 長澤さよ子 (59) 埼玉県川口市 (会社員)
- 渡辺和徳 (31) 広島市 (無職)
- 納正彦 (73) 福井県敦賀市 (主婦)
- 伊藤恵 (23) 滋賀県長浜市 (会社員)
- 山下克己 (53) 熊本市 (事務員)
- 小川正 (40) 秋田市 (デザイナー)
- 溝口大輔 (24) 北九州市 (会社員)
- わたべつちよ (27) 東京都足立区 (主婦)
- 熊谷睦子 (59) 兵庫県明石市 (主婦)

エッセー・絵手紙の最終審査で討議する委員たち



まで楽しんでしまった。人の良さ  
 そうなおじさんとの、店内でのさ  
 さやかな交流がユーモアをまじえ  
 て綴られている。

「信じられませんが  
 パチンコは父と」

審査委員  
 会では、田  
 代さんの作  
 品について  
 「パチンコ  
 店での人と  
 の出会いに  
 感銘を受け  
 た」「ホール  
 の雰囲気の  
 良さがにじ  
 み出ている  
 作品」とい  
 う意見が出  
 された。優  
 秀賞には、  
 パチスロへ  
 の想いを詩  
 に込めた佐  
 賀県小城市  
 秋山景一さ  
 ん(33)(三宝  
 商事株)の  
 「大好きな  
 あなたへ」業  
 界の部)、

高齢の女性が大好きなパチンコを通じて悲喜こもごもの過去を振り返る千葉県茂原市、河野ひさ江さん(82)の「私のパチンコ人生」(一般の部)の2編が選ばれた。

最優秀受賞の報を聞いて田代さんは、「公募ガイドで募集を知って応募してみました。最優秀賞とは信じられないですね。考えたこともなかったです。九州に父親がいて、パチンコは九州に帰ったときに父と一緒にやります。でも北海道では、1人ではほとんどホールに行かないんですよ。それだけに受賞はともうれしい」と喜んでいました。

## ●●● 巧みな太い線細い線 暖かさがにじみ出て

一方、絵手紙で最優秀賞を受けた堀さんの作品は、パチンコ玉に乗せた手のアップに「やりたい時にやりたいだけ楽しめるパチンコっていいな。小さな玉から大きなたのしみが生まれるよ」と文が添えられている。審査委員会では、「人の手の描かれ方に暖かさが感じられる」「墨で描かれ、太い線、細い線とが巧みに共存している。」

## 最優秀賞

# パチンコとおじさまと私

田代 香織



エッセー部門最優秀賞の田代香織さん

九州から北海道へと移り住んで3か月、30歳目前での転職は結構こたえた。職場では心躍るような出会いもなく、毎日顔を合わせる職場のメンバーとは、独特の距離感を保ち続けている。「職場の人間関係の鉄則は、ドライであること」。そう自分に言い聞かせながら、慣れない雪かきへの士気を高める日々を過ごしていた。寒い冬の帰り道、ゲーセンの前ではしゃぐ女子高生や酔っぱらっているんでいるサラリーマンを眺めていたら、「孤独だな」と思った。ずっと前から分かってはいたけれど——。急に普段の生活から離れたくなって、少し先のパチンコ屋に入った。こんな日の行動には、自分ながら驚いてしまう。

実家の父に何度か連れて行ってもらった経験がある程度で、「ひとりパチンコ屋なんて初めて」だから孤独な上に緊張感もマックスだ。お財布には3千円しかないというのに「独りですが、何か?」という顔で、あえて堂々と入店してしまう、私はそんな人間なのだ。余裕を装いイスに座り脚を組む。押せるだけのボタンを押してみる……が、そこから先に進めない。すると状況を察した隣のおじさまが「お金はそこよ。そこ! こうすれば玉

が出てくるよ」と笑いながら教えてくれた。よく見るとおじさまは耳にパチンコ玉を詰めている。「ありがとう。ベテランのおじさま」、心の中で呟き軽く会釈をした。右手を回すと、目の前のキラキラとした光に吸い込まれた。職場のこと、離れている友達のこと、不規則な生活のこと、自分のこと、いろんなことを考えた。

時々、ド派手なスーパーリーチがかかると現実ですっと引き戻され、たとえ数字が揃わなくても「だよね」と納得したりした。最後の千円を入れ、帰りの電車の時間を計算していた時に緊急事態発生。あらゆる電飾が光り出し、「これも動くの?」という飾りまでがフル回転。テンションも高ぶる音楽とともに数字は揃ってしまった。「超KY! お金も無いし玉も無い。隣に父もいなければ友達もいない。だいたい私自身が孤独な人間なのに!」と必要以上の寂しさを感じ焦っていたその時、さっきのおじさまが何の躊躇もなく自分の玉をコップですくい、勢いよく私の手元に投げ入れた。「こういう時はちょっと勇気を出して誰かに玉をもらえばいいんだよ。後で勝ち玉の一杯を返してもらえたら、こっちは縁起がいいしね」。耳の中の玉を

これは絵手紙の大事な要素だと思  
う」と評価された。優秀賞には、  
仕事帰りのお父さんがパチンコ玉  
のベッドに寝そべり、「仕事で疲  
れた顔なんか家族に見せられない  
から、今日も寄り道：パチンコは  
心のマツサージ」という文が添え  
られた静岡県袋井市、自営業永井  
明人さん（57）と、「女子会のあ  
とはみんな一緒にパチンコ、最  
高に楽しくてハッピーなひととき  
です」という文とともに4人の女  
性が楽しそうに台に向かっている  
東京都江東区、会社員山田美奈子  
さん（41）の2作品が選ばれた。  
絵手紙は全体にデザイン重視の作  
品が目立ち、また過去にいろいろ  
なコンテストで入賞歴がある作者  
が最終審査に多く残った。

## 「主人の様子思い 描いてみました」

最優秀賞を受賞した堀さんも、  
各種の絵手紙コンテストで複数の  
受賞歴がある。今回、受賞の報を  
聞いて、「インターネットで募集  
を知りました。パチンコは2回し  
かやったことがないですが、主人  
がうまくて、若い頃は随分景品を

光らせながらおじさまは笑った。勝ち玉という普  
段なら使うことのないフリーズよりも、勇気とい  
う言葉が私の耳に残った。

私にはいつもちょっとした勇気が足りなかった。  
人の輪に入ることを避け、何でも自分ひとりで解  
決することを最優先に生きてきた。一人暮らしを  
していた学生時代、「困った時には誰かの助けを借  
りることも大事やけんね」とよく母に言われてい  
たことを思い出した。あれから10年が経つ今も、  
私にはそれがなかなかできずにいた。そんなこと  
を考えているうちに気が付くと、数字は揃い続け  
手元には玉でパンパンになった箱がある。やばい、  
これ以上の玉抜きは危険すぎる。しかし店員さん  
の呼び方も私にはわからない。自分で箱を換えよ  
うか、いや、この重さは三十路間近の女手では無  
理だ、過酷すぎる。ふと母の言葉が頭をよぎる。  
そうだ、助けを借りなければ。私は勇気を出して  
隣のおじさまをじっと見つめた。子犬のような目  
で熱い視線を送り「もう玉抜きできないよ」と心  
の中で唱えた。するとおじさまは、私の視線にビ  
クッと体を反らし「あ、ああ箱ね、箱降ろしてあ  
げるよ」。私は声こそ出していないものの、おじ  
さまからの助けによりピンチを免れた。

姉ちゃんと言われたことにも快感を得ていたが。  
その日の私はおじさまの言うようにしていた。  
その後も数字は揃い続け、その度におじさまに熱  
い視線を送ると「すごいね。どれどれ」と箱を交  
換してもらった。ここまでくるともはや二人三脚  
で、リーチの度におじさまの方がソワソワするま  
でに至った。3か月ぶりに笑った。そして、それ  
までの孤独を感じていた自分をちっけに思った。  
閉店を迎えるころ、私はコップ1杯分の勝ち玉を  
おじさまに手渡し、大きな声で「ありがとうござ  
いました。すごく楽しかったです」と言って頭を  
下げた。おじさまは急に礼儀正しくなって、耳の  
中のパチンコ玉を外し、「今日は良かったですね」  
と最後の挨拶をして見送ってくれた。おじさまの  
人の良さにまた笑えた。

帰り道、駅前雑貨屋で「今日の記念」にと手  
鏡を買った。手鏡に映る自分は、思っていたより  
もずっと元気な顔をしていて大丈夫そうだった。  
それ以来、私は「またいつかあの場所へ行こう」  
と思いながら、雪かきへの士気を上げている。あ  
の日吸い寄せられるように入ったパチンコ屋、あ  
の時の自分の心境と、その中で出会ったベテラン  
のおじさまとの因果関係を考える度に、やっぱり  
ちょっと笑ってしまう。私は前よりずっと元気に  
なって少し強くなった自分が好きになった。

最優秀賞



取って帰ってきました。2回の経験と主人の様子を思い出して描いてみました」と、喜びを語った。

最終審査委員会は深谷日遊協会長を審査委員長に、業界委員として原田全日遊連理事長、市原日工組理事長、里見日電協理事長、井上全商協会長、伊豆回胴遊商理事長、木原自工会理事長、日遊協委員として庄司副会長、松谷明日の協会創造室長、福山広報委員長、事務局から篠原専務理事、伊東常務理事の計12人で構成されている。

今回のテーマは、エッセー、絵手紙ともに「パチンコと私」「パチスロと私」「未来のパチンコワールド」の3つ。募集にあたっては、エッセーは業界の部と一般の部に区分して募集し、絵手紙は区分せずにフリーで募集した。応募総数は1196編（エッセー663編、絵手紙533編）。エッセー1663編の内訳は一般の部36



絵手紙部門最優秀賞の  
堀 記子さん

6編、業界の部297編だった。第1次審査でエッセー25編、絵手紙24編が残り、さらに第2次審査で各13編が最終審査に進んだ。最終審査委員12人の中からエッセー、絵手紙各5編の最優秀、優秀賞の候補を事前に選び、最終審査委員会で各委員の投票を集計した上で改めて作品ごとに論評し、審議した。

「パチンコ・パチスロ エッセー・絵手紙コンクール」は、昨年まで9回続いた「パチンコ・パチスロ論文・作文コンクール」に代わる新しいコンクール。論文・作文コンクールは終盤、マンネリ化の傾向が指摘されたが、パチンコ・パチスロ業界が一般の人たちも対象にコンクールを催すことの意義、業界をPRする文化的事業としての意義は評価された。その上で、女性を含めた一般の人たちの参加を募りやすい形として、エッセーと絵手紙を対象にしたコンクールに刷新された。今回、1200編近い応募作品を集めたことで、担当する広報委員会では今後の見通しが立ったと見ている。今秋、第2回の募集を行う予定だ。